

教養基礎英語Ⅲにおける TOEIC e-learning の活用とその効果

英語科 浅見道明

1. はじめに

お茶の水女子大学附属高等学校では高大連携事業の一環として、国数英の教科で学校設定科目として「教養基礎」を設けている。英語科では1年生必修科目として「教養基礎英語Ⅰ」（2単位）、2年生必修科目として「教養基礎英語Ⅱ」（1単位）、3年生選択科目として「教養基礎英語Ⅲ」（2単位）を設けている。テキストはそれぞれ Michigan Action English Step 1 Workbook と Handbook, Step 2 Workbook と Handbook, Step 3 Workbook と Handbook を使用している。2012年度は教養基礎英語Ⅲの履修者は7名で、全員がお茶の水女子大学への特別推薦入学を希望していた。2012年度が始まる前に株式会社ニュートンから TOEIC e-learning の学校モニターになってほしいという依頼があった。お茶の水女子大学ではコア科目である基礎英語のクラス分けを入学後の TOEIC テストの結果により行っている。その TOEIC テストの練習になるという理由から、学校モニター契約を結ぶこととした。

2. 授業

2012年度の「教養基礎英語Ⅲ」は金曜日の2、3時限の連続授業である。生徒は毎週自宅で Michigan Action English Step 3 Workbook を1 Lesson ずつ学習し、授業でその確認テストを行い、各 Lesson の対話を1つ取り上げて対話練習を行っている。別に授業外で洋書を読むことを課題としている。以上で1時間目が終わり、2時間目はコンピュータを使って TOEIC e-learning の問題を各自LL教室で解かせた。LL教室にはノートパソコンが8台あるが、インターネット環境が整っていなかったため、個人持ちのWi-FiルーターをLL教室に持ち込んで、ノートパソコンをインターネットに接続した。

3. カリキュラム

1年間の TOEIC e-learning のカリキュラムは以下のようであった。

回		授 業	課 題 学 習		Step数	時間
1	4月20日	WEBテスト(1-1回目)				
2	4月27日	WEBテスト(1-2回目)	単熟語	レベルA	20	3
3	5月4日	休日	単熟語	レベルB	20	3
4	5月11日	校外学習	単熟語	レベルC	20	3
5	5月18日	Part1	BI_Part1	ディクテーション	13	2
6	5月25日	Part1	BI_Part1	問題演習(米国)	6	2
7	6月1日	Part2	BI_Part2	ディクテーション	20	2

8	6月8日	Part2	BI_Part2	問題演習(米国)	9	2
9	6月15日	Part3	BI_Part3	ディクテーション1	20	3
10	6月22日	Part3	BI_Part3	ディクテーション2	20	3
11	6月29日	期末テスト				
12	7月6日	Part3	BI_Part3	問題演習(米国)	9	3
13	7月13日	WEBテスト(2回目)				
14	7月20日	夏季休暇	BI_Part1	問題演習(各国)	6	2
15	7月27日	夏季休暇	BI_Part2	問題演習(各国)	9	2
16	8月3日	夏季休暇	自学習(既習科目の習熟・未習科目の先行学習)			
17	8月10日	夏季休暇				
18	8月17日	夏季休暇				
19	8月24日	夏季休暇				
20	8月31日	夏季休暇	BI_Part4	ディクテーション	11	3
21	9月7日	Part4	BI_Part4	問題演習(米国/各国)	26	4
22	9月14日	Part5	BI_Part5	短文穴埋め	10	3
23	9月21日	学校行事				
24	9月28日	Part5	BI_Part5	短文穴埋め	10	4
25	10月5日	Part6	BI_Part6	長文穴埋め	6	3
26	10月12日	Part6	BI_Part6	長文穴埋め	4	2
27	10月19日	中間テスト				
28	10月26日	Part7	BI_Part7	速読演習A	10	4
29	11月2日	Part7	BI_Part7	速読演習B	10	4
30	11月9日	Part7	BI_Part7	速読演習C	10	4
31	11月16日	Part7	BI_Part7	問題演習A	10	3
32	11月23日	休日				
33	11月30日	Part7	BI_Part7	問題演習B	10	3
34	12月7日	期末テスト				
35	12月14日	Part7	BI_Part7	問題演習C	10	3
36	12月21日	冬季休暇	自学習(既習科目の習熟・未習科目の先行学習)			
37	12月28日	冬季休暇				
38	1月4日	冬季休暇				
39	1月11日	Part7	BI_Part7	問題演習D	5	3
40	1月18日	センター試験				
41	1月25日	WEBテスト(3回目)				
						76

4. WEBテスト結果

4月20日と4月27日に pretest として WEB テスト 1 回目を LL 教室で授業中に行った。また、1月25日に post test として WEB テスト 3 回目を LL 教室で授業中に行った。結果は以下の通りであった。

生徒番号	リスニング1	リーディング1	合計1	TOEIC換算点	リスニング2	リーディング2	合計2	TOEIC換算点
1	34	23	57	282	40	61	101	500
2	58	48	106	525	64	60	124	614
3	60	47	107	530	54	75	129	639
4	58	55	113	559	80	72	152	752
5	70	67	137	678	80	76	156	772
6	48	45	93	460	62	51	113	559
7	92	84	176	871	92	78	170	842

このWEBテストは株式会社NEWTONが作成したものであるが、石川（2011）によると、このWEBテストとTOEICスコアとのリーディングとリスニングの総合点での相関が $r=.70$ であり、かなり高い相関があることが報告されている。

pretest と post test の中央値に有意な差があるかを調べるため、ウィルコクソンの符号付き順位検定を行ったところ、WEBテスト1回目のリーディングとリスニングの総合点とWEBテスト2回目の総合点との間で中央値に有意な差がみられ、WEBテスト1回目<WEBテスト2回目であった ($z = -2.197, p < .05$)。WEBテスト1回目のリーディング点とWEBテスト2回目のリーディング点との間で中央値に有意な差がみられ、WEBテスト1回目<WEBテスト2回目であった ($z = -2.117, p < .05$)。また、WEBテスト1回目のリスニング点とWEBテスト2回目のリスニング点との間で中央値に有意な差はみられなかった ($z = -1.802, n.s.$)。

5. アンケート

授業の終わりに e-learning に関するアンケートを行った。回答は①強くそう思う、②そう思う、③わからない、④あまり思わない、⑤思わない、であった。結果は以下の通りであった。

- 1) 学習しやすかったですか
①0 ②6 ③0 ④1 ⑤0
- 2) ボタンキーの操作はしやすかったですか
①3 ②2 ③0 ④1 ⑤1
- 3) 画面の表示は見やすかったですか
①4 ②2 ③0 ④1 ⑤0
- 4) よく覚えられましたか
①2 ②2 ③3 ④0 ⑤0
- 5) 効果的だと思いますか
①1 ②5 ③1 ④0 ⑤0

6) 語彙力強化に有効でしたか

①2 ②3 ③2 ④0 ⑤0

7) 学習を継続したいですか

①3 ②1 ③2 ④1 ⑤0

8) 間違った問題を集中的に繰り返すのが効果的でしたか

①1 ②5 ③1 ④0 ⑤0

また、感想を自由記述で求めた。結果は以下の通りであった。

- ・高校のコンピュータが悪いのか、動作が遅いことがあった。イヤホンの準備に不備があったりして、リスニングの問題を1問無駄にしてしまうことがあったので、音声確認ボタンをメニューのページに付けるとよいと思う。スマホはすぐ充電が無くなると聞いたので利用しなかった。
- ・繰り返しやって覚えるのは良いのですが、間違えた問題をその直後に出されても正解するに決まっているので、Part 1～Part 6のAが終わったらPart 1～Part 6のBみたいな進み方しかできないようにすれば、もっと定着するのかなと思いました。短期記憶で終わってしまった単語が多い気がして、そこが残念です。
- ・その時点でまちがった問題を繰り返すのもいいが、前回やった分を復習っていうのもいいと思う。
- ・よくとまる。音声流れなくなる。長文を読むときにペンで線を引ながら読めないで、読みにくい。目が疲れる。同じ文章で違う国の発音のリスニングをやるのはどうかと思う。文章を覚えてしまっているし、正直飽きる。

6. 考察

WEBテストの結果からこの株式会社 NEWTON の TOEIC e-learning を高校生が使うと TOEIC 総合テストとリーディングテストにおいて、得点が有意に改善されることが証明できた。また、アンケートから、「学習しやすい」「効果的だ」「語彙力強化に有効」と答えている学習者が多かったので、この e-learning の効果を肯定的に考えている生徒が多いことがわかった。TOEIC を受検しようと考えている高校3年生がいれば、この e-learning を学習させるとよいであろう。しかし、アンケートから、この e-learning システムでは、学習者が間違った解答をした場合、すぐに同じ問題をやり直させるところが、欠点であると指摘されている。e-learning 開発者にはこの点を改善することを提言したい。

参考文献

石川有香 (2011) 「Newton・グローバルフォート・石川有香研究室共同研究2010年度実施報告」